

## グループ展『SPRING SHOW』開催のご案内

展覧会名：『SPRING SHOW』

展示作家：exonemo / 大久保 紗也 / 川内 理香子 / 高田 冬彦 / 豊田 涼華

会 期：2024年3月7日（木）～ 3月31日（日）

※オープングレセプションは開催いたしません。

開廊時間：12:00-19:00（日曜 -17:00）

定休日：月・火・祝日

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOMは、2024年3月8日（金）から3月10日（日）に東京国際フォーラムで開催される『アートフェア東京2024』に、大久保紗也のソロ展示で参加いたします。フェアにあわせて江戸川橋のギャラリーでは、エキソモノ・大久保紗也・川内理香子・高田冬彦・豊田涼華の5名によるグループ展を開催いたします。4名は未発表の新作を含む近作を展示、アートフェアで展示する大久保紗也は、新作のトタンを支持体としたペインティング作品2点を展示します。

東京国際フォーラムからギャラリーへは、東京メトロ有楽町線で江戸川橋駅まで12分・駅から徒歩5分でお越しいただけます。この機会に是非、フェア会場のWAITINGROOMブースとギャラリースペースでの展示を、あわせてお楽しみください（ギャラリーでの展覧会は3月31日（日）まで開催いたします）。また同時期の2024年3月6日（水）から3月18日（月）に、日本橋三越本店 三越コンテンポラリーギャラリーにて、大久保紗也の個展『Leitmotiv』が開催されます。こちらもあわせてご高覧ください。



### 同時開催：『アートフェア東京2024』

ご招待制：3月 7日（木）11:00-19:00

一般会期：3月 8日（金）11:00-19:00

3月 9日（土）11:00-19:00

3月10日（日）11:00-17:00

会場：東京国際フォーラム ホールE/B1Fロビーギャラリー

（〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1）

入場料：前売券 4,000円（税込）／予約当日券 5,000円（税込）

ウェブサイト：<https://artfairtokyo.com>

ブース番号：S027

**ART FAIR TOKYO**  
MARCH 8-10 2024



"Click and Hold: x377px, y931px, 67dpi", 2019, キャンバスにアクリルと鉛筆、釘, H609 x W762 mm



2019年個展『LO』(WAITINGROOM/東京) installation view

## exonemo (エキソニモ)

千房けん輔と赤岩やえによるアートユニット。1996年にインターネット上で活動を開始。2000年から実空間でのインスタレーションやパフォーマンス、イベントオーガナイズ等へ活動を広げ、2015年からはニューヨークを拠点に活動中。2006年、世界的なメディアアート・フェスティバルであるアルス・エレクトロニカのネット・ビジョン部門でゴールデン・ニカ賞(大賞)を受賞。2012年には10数名のメンバーと共にIDPW(アイパス)を組織し、「インターネットヤミ市」をはじめとするイベントを国内外で開催。本展では、斜めに傾いたペインティングシリーズである、「Click and Hold」の新作を4点展示いたします。近年の展覧会として、2023年個展『On Memory』(WAITINGROOM/東京)、2022年グループ展『GEMINI Laboratory Exhibition』(ANB Tokyo/東京)、2019年グループ展『あいちトリエンナーレ2019 情の時代』(愛知県美術館/愛知)などが挙げられます。2020年に開催された個展『エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク [インターネットアートへの再接続]』(東京都写真美術館/東京)にて令和2年度(第71回)芸術選奨 美術部門 文部科学大臣新人賞を受賞。2021年には大林財団の助成制度「都市のビジョン - Obayashi Foundation Research Program」第3回のアーティストに選出され、2023年にその活動をまとめた記録冊子『Infected Cities』が刊行されました。



## 大久保紗也個展『Leitmotiv』

会期: 3月6日(水) - 3月18日(月)

会場: 日本橋三越本店本館6階美術  
コンテンポラリーギャラリー



"That wound", 2024  
キャンバスパネルに油彩とアクリル  
H1303 x W970 mm

(左) "They", 2023, プラスチックトタンに油彩とアクリル, H505 x W410 mm  
(右) "They", 2023, プラスチックトタンに油彩とアクリル, H425 x W355 mm

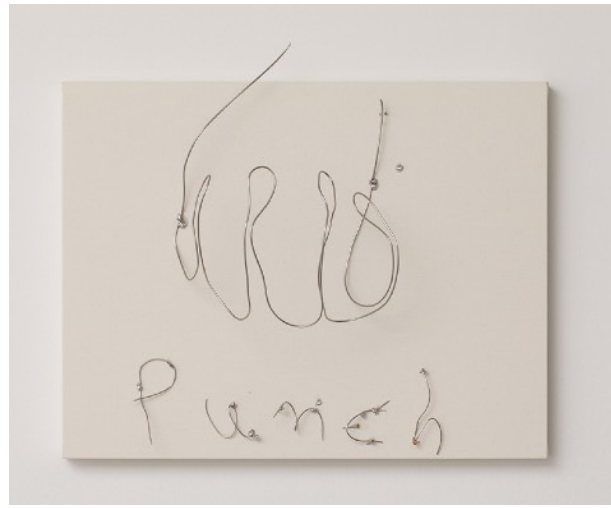
## 大久保 紗也 (おおくぼ・さや)

1992年福岡県生まれ、2017年に京都造形芸術大学大学院・芸術専攻ペインティング領域を修了。現在は東京を拠点に活動中。輪郭線として表現される記号的なイメージと、物質感を伴う抽象的な像のうねりという、二つの分離した要素を共存させた絵画を制作しているアーティストです。本展ではトタンを支持体とした新作のペインティングを2点を展示します。近年の展覧会として、2022年個展『Box of Moonlight』(WAITINGROOM/東京)、『The mirror crack'd from side to side』(六本木ヒルズA/Dギャラリー/東京)、『We are defenseless. / We are aggressive. (無防備なわたしたち/攻撃的なわたしたち)』(日本橋三越本店 三越コンテンポラリーギャラリー/東京)、2020年個展『They』(WAITINGROOM/東京)、2019年グループ展『大鬼の住む島』(WAITINGROOM/東京)、2018年個展『a doubtful reply』(WAITINGROOM/東京)などが挙げられます。2017年秋に参加した公募グループ展『第4回CAF賞入賞作品展』(代官山ヒルサイドフォーラム/東京)では、白石正美賞を受賞しました。

↓<次頁> 作家略歴 (つづき)



"making honey" 2023, oil on canvas, 910 x 727 mm



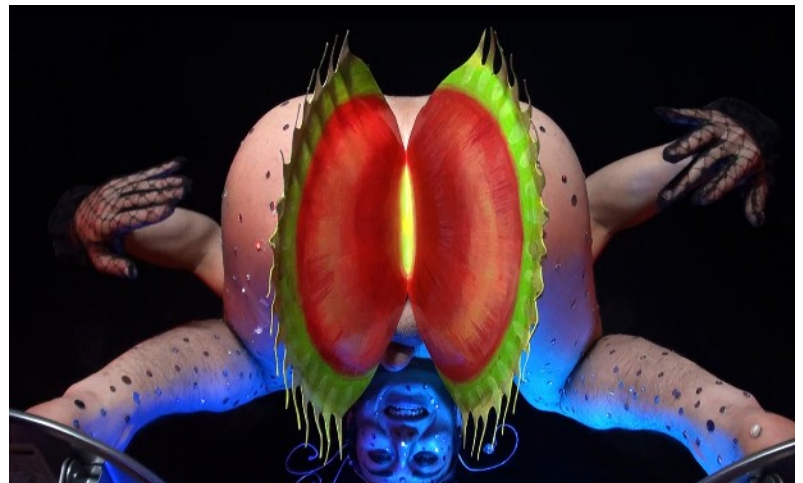
"punch" 2022, wire and pin on paper mounted with acrylic box, 420 x 510 x 200 mm

### 川内 理香子 (かわうち・りかこ)

1990年東京都生まれ、2017年に多摩美術大学大学院・美術研究科絵画専攻油画研究領域を修了。現在は東京を拠点に活動中。食への関心を起点に、食事・会話・セックスといった様々な要素が作用し合うコミュニケーションの中で見え隠れする、身体と思考、自己や他者、それらの相互関係の不明瞭さを、多岐にわたるメディアを横断しながら表現しているアーティストです。本展では、日本未発表のペインティング数点と針金作品を1点展示します。近年の展覧会として、2023年個展『Even the pigments in paints were once stones』(WAITINGROOM/東京)、『The Voice of the Soul』(ERA GALLERY/イタリア)、『human closely』(Lurf Museum/東京)、2023年グループ展『Body, Love, Gender』(GANA ART CENTER/韓国)、アーツ前橋開館10周年記念展「New Horizon—歴史から未来へ」(アーツ前橋/群馬)などが挙げられます。2022年『VOCA展2022 現代美術の展望 -新しい平面の作家たち-』では大賞のVOCA賞を受賞。その他の受賞歴に、2021年『TERRADA ART AWARD 2021』寺瀬由紀賞、2015年『第9回 shiseido art egg』art egg賞、2014年『第1回CAF賞』保坂健二郎賞などが挙げられます。



"Leave Britney Alone!", 2009, シングルチャンネルビデオ、サウンド、3分34秒

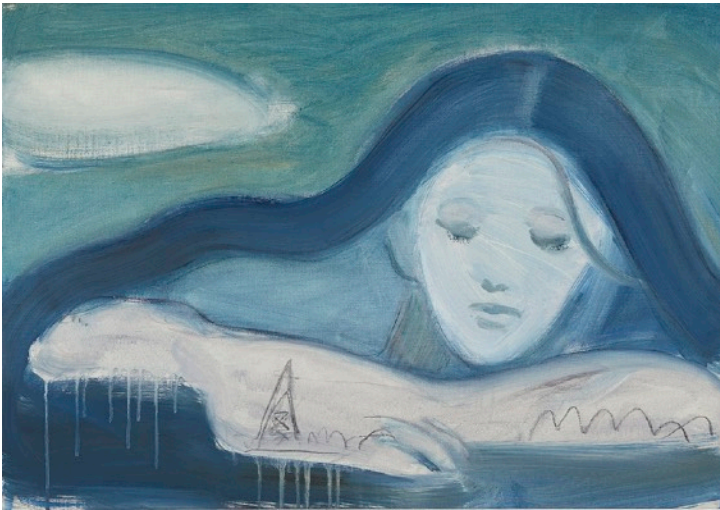


"VENUS ANAL TRAP", 2012, シングルチャンネルビデオ、サウンド、2分40秒

### 高田 冬彦 (たかた・ふゆひこ)

1987年広島県生まれ。2017年東京藝術大学大学院美術研究科油画研究領域・博士後期過程を修了。現在は千葉県を拠点に活動中。おとぎ話や神話を下敷きに、ジェンダー、セクシュアリティ、孤独、ナルシシズムやトラウマといったテーマを横断的に扱った映像作品を制作しています。3月末に開催されるArt Basel Hong Kong 2024でのソロプレゼンテーションに先駆けて、本展では"VENUS ANAL TRAP"と"Leave Britney Alone!"の2本の映像作品を展示します。近年の主な展覧会に、2023年個展『Cut Pieces』(WAITINGROOM/東京)、2023年グループ展『Fairy Tales』(Queensland Art Gallery | Gallery of Modern Art/ブリスベン、オーストラリア)、2022年グループ展『Storymakers in Contemporary Japanese Art』(The Japan Foundation Sydney/シドニー、オーストラリア)、2020年グループ展『When It Waxes and Wanes』(VBKÖ/ウィーン、オーストリア)、2019年個展『MAMスクリーン011: 高田冬彦』(森美術館/東京)、2018年個展『Dream Catcher』(Alternative Space CORE/広島)、2017年グループ展『MOTアニュアル2016 キセイノセイキ』(東京都現代美術館/東京)などが挙げられます。

↓<次頁> 作家略歴 (つづき)



“眺める”, 2023, キャンバスに油彩と木炭, H 455 x W 652 mm



“ベッドの虫”, 2023, キャンバスに油彩と木炭, H 410 x W 530 mm

### 豊田 涼華（とよだ・すずか）

1996年三重県生まれ、2021年に東京藝術大学大学院・美術研究科絵画専攻（油画）を修了。現在は茨城県を拠点に活動中。日常のふとした瞬間に目撃した人々やネット等の写真画像をモチーフに、自身の記憶やイメージを織り込んだ絵画を制作しており、本展では、日本未発表のペインティング作品4点を展示します。近年の展覧会として、2023年個展『Fluctuation』（Soka Art Innermost/台湾）、『zapping』（日本橋三越本店 三越コンテンポラリーギャラリー/東京）、グループ展『人』（長亭GALLERY/東京）、2021年個展『一端をうかがう』（WAITINGROOM/東京）、『過日』（RISE GALLERY/東京）、グループ展『コートヤードHIROO Selection 2021: Look Forward!』（コートヤードHIROO/東京）、『交差点-いま、ここからの-』（Bunkamura Gallery/東京）、『the sight of the stars makes me dream』（SCÈNE/東京）、『Collectors' Collective vol.4 Osaka』（TEZUKAYAMA GALLERY/大阪）、2020年グループ展『まなざしのカタチ』（WAITINGROOM/東京）が挙げられます。まだ展示歴の少ない若手作家でありながら、その作品は大きく注目を集めています。

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM（担当：清水瑠莉）

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：12:00-19:00（日曜 -17:00）

定休日：月・火・祝日

Tel：03-6304-1877 Eメール：info@waitingroom.jp

Web：http://waitingroom.jp